

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月14日
【四半期会計期間】	第112期第3四半期（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）
【会社名】	株式会社中京銀行
【英訳名】	The Chukyo Bank, Limited
【代表者の役職氏名】	取締役頭取 永井 涼
【本店の所在の場所】	名古屋市中区栄三丁目33番13号
【電話番号】	052（262）6111（大代表）
【事務連絡者氏名】	総合企画部長 瀬林 寿志
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区八丁堀四丁目10番4号 株式会社中京銀行 東京事務所
【電話番号】	03（3555）6811（代表）
【事務連絡者氏名】	東京事務所長 石橋 直樹
【縦覧に供する場所】	株式会社中京銀行津支店 （三重県津市東丸之内20番11号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成28年度 第 3 四半期連結 累計期間	平成29年度 第 3 四半期連結 累計期間	平成28年度
		(自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 12月31日)	(自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 12月31日)	(自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)
経常収益	百万円	23,527	22,390	30,703
経常利益	百万円	4,272	3,253	5,360
親会社株主に帰属する四 半期純利益	百万円	2,873	2,319	—
親会社株主に帰属する当 期純利益	百万円	—	—	3,679
四半期包括利益	百万円	1,308	4,266	—
包括利益	百万円	—	—	439
純資産額	百万円	110,029	111,283	107,697
総資産額	百万円	1,955,017	1,954,483	1,956,255
1 株当たり四半期純利益 金額	円	132.80	106.99	—
1 株当たり当期純利益金 額	円	—	—	169.99
潜在株式調整後 1 株当 たり四半期純利益金額	円	132.28	106.49	—
潜在株式調整後 1 株当 たり当期純利益金額	円	—	—	169.27
自己資本比率	%	5.55	5.68	5.49

		平成28年度 第 3 四半期連結 会計期間	平成29年度 第 3 四半期連結 会計期間
		(自 平成28年 10月 1 日 至 平成28年 12月31日)	(自 平成29年 10月 1 日 至 平成29年 12月31日)
1 株当たり四半期純利益 金額	円	58.85	47.01

(注) 1. 当行および連結子会社の消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 平成28年10月 1 日付で普通株式10株を 1 株とする株式併合を実施いたしました。1 株当たり四半期純利益金額、1 株当たり当期純利益金額、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額および潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算出しております。

3. 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末新株予約権 - (四半期)期末非支配株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。

2 【事業の内容】

当第 3 四半期連結累計期間において、当行および当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間においては、該当する経営上の重要な契約等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当行グループ（当行および連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、緩やかな回復基調が続きました。輸出の持ち直しや生産の増加などにより、企業収益や雇用情勢の改善が持続するなど底堅く推移しました。

金融情勢につきましては、日本銀行による長短金利操作付き量的・質的金融緩和の継続などにより、長期金利はマイナス0.02%～プラス0.11%の範囲で推移しました。また、オーバーナイト物金利は、マイナス0.08%～マイナス0.02%の範囲で推移しました。

このような経済金融情勢の下、当第3四半期連結累計期間の当行グループの業績は以下のとおりとなりました。

預金は、法人のお客さまを主体に前連結会計年度末比202億円増加し、1兆7,693億円となりました。貸出金は、中小企業や個人のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えするよう努めてまいりましたが、前連結会計年度末比140億円減少し1兆2,835億円となりました。また有価証券は、前連結会計年度末76億円減少し5,711億円となりました。

収益面につきましては、経常収益は、利回り低下による貸出金利息収入の減少と、貸倒引当金戻入益の減少などにより、前年同四半期連結累計期間比11億37百万円減少の223億90百万円となりました。また、経常費用は、預金利息や営業経費の減少などにより、前年同四半期連結累計期間比1億17百万円減少の191億37百万円となりました。その結果、経常利益は前年同四半期連結累計期間比10億19百万円減少し32億53百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同四半期連結累計期間比5億54百万円減少し23億19百万円となりました。

国内・国際業務部門別収支
(業績説明)

資金運用収支は、前年同期比92百万円増加し、15,171百万円の利益計上となりました。役務取引等収支は、前年同期比29百万円増加し、2,421百万円の利益計上となりました。また、その他業務収支は、前年同期比304百万円減少し、74百万円の損失計上となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	14,220	864	6	15,079
	当第3四半期連結累計期間	14,373	804	6	15,171
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	15,259	1,272	93	16,437
	当第3四半期連結累計期間	14,901	1,319	40	16,180
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	1,038	407	87	1,358
	当第3四半期連結累計期間	527	515	34	1,008
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	2,336	55	1	2,392
	当第3四半期連結累計期間	2,372	47	0	2,421
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	4,029	72	320	3,781
	当第3四半期連結累計期間	4,170	67	324	3,913
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	1,693	17	322	1,388
	当第3四半期連結累計期間	1,797	20	325	1,492
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	37	299	106	230
	当第3四半期連結累計期間	614	577	111	74
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	950	676	106	1,520
	当第3四半期連結累計期間	1,411	80	111	1,379
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	913	376	-	1,290
	当第3四半期連結累計期間	796	657	-	1,454

(注) 1. 国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は国際業務部門に含めております。
2. 「相殺消去額」欄の計数は、連結会社間の取引等の相殺消去額であります。
(以下において同じであります。)

国内・国際業務部門別役務取引の状況
(業績説明)

役務取引等収益は、預金・貸出業務および証券関連業務の手数料収入増加を主な要因として前年同期比132百万円増加し、3,913百万円となりました。

また、役務取引等費用は、前年同期比104百万円増加し、1,492百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	4,029	72	320	3,781
	当第3四半期連結累計期間	4,170	67	324	3,913
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	1,199	-	10	1,189
	当第3四半期連結累計期間	1,415	-	9	1,405
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	1,013	71	12	1,073
	当第3四半期連結累計期間	1,007	66	11	1,063
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	707	-	-	707
	当第3四半期連結累計期間	890	-	-	890
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	784	-	-	784
	当第3四半期連結累計期間	525	-	-	525
うち保護預り・貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	0	-	-	0
	当第3四半期連結累計期間	0	-	-	0
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	323	0	298	26
	当第3四半期連結累計期間	331	0	303	28
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	1,693	17	322	1,388
	当第3四半期連結累計期間	1,797	20	325	1,492
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	220	16	12	224
	当第3四半期連結累計期間	218	19	11	227

国内・国際業務部門別預金残高の状況
○ 預金の種類別残高（未残）

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）
預金合計	前第3四半期連結会計期間	1,757,410	6,011	7,061	1,756,360
	当第3四半期連結会計期間	1,770,191	5,584	6,421	1,769,354
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	923,720	-	7,061	916,658
	当第3四半期連結会計期間	972,987	-	6,421	966,566
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	830,532	-	-	830,532
	当第3四半期連結会計期間	793,205	-	-	793,205
うちその他	前第3四半期連結会計期間	3,157	6,011	-	9,169
	当第3四半期連結会計期間	3,997	5,584	-	9,582
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	-	-	-	-
	当第3四半期連結会計期間	5,150	-	-	5,150
総合計	前第3四半期連結会計期間	1,757,410	6,011	7,061	1,756,360
	当第3四半期連結会計期間	1,775,341	5,584	6,421	1,774,504

（注）1．流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金

2．定期性預金＝定期預金＋定期積金

国内・特別国際金融取引勘定別貸出金残高の状況

○ 業種別貸出状況（未残・構成比）

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内（除く特別国際金融取引勘定分）	1,270,962	100.00	1,283,532	100.0
製造業	191,481	15.07	187,455	14.60
農業、林業	756	0.06	641	0.05
漁業	1,044	0.08	501	0.04
鉱業、採石業、砂利採取業	472	0.04	510	0.04
建設業	88,393	6.95	88,640	6.91
電気・ガス・熱供給・水道業	27,510	2.16	29,899	2.33
情報通信業	8,086	0.64	4,874	0.38
運輸業、郵便業	52,379	4.12	51,157	3.98
卸売業、小売業	206,521	16.25	192,871	15.03
金融業、保険業	61,409	4.83	70,894	5.52
不動産業、物品賃貸業	217,435	17.11	228,959	17.84
宿泊業、飲食サービス業	17,325	1.36	17,143	1.34
生活関連サービス業、娯楽業	18,886	1.49	19,558	1.52
医療、福祉	28,513	2.24	29,420	2.29
サービス業（他に分類されないもの）	40,060	3.15	40,133	3.13
地方公共団体	12,667	1.00	12,395	0.97
その他	298,018	23.45	308,472	24.03
特別国際金融取引勘定分	-	-	-	-
政府等	-	-	-	-
金融機関	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
合計	1,270,962	—	1,283,532	—

（注）「国内」とは、当行および連結子会社であります。

（2）経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当行グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

（3）事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当行グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	21,745,958	同左	東京証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部	単元株式数は 100株であります。
計	21,745,958	同左	---	---

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	—	21,745	—	31,844	—	23,184

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿が確定していないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	---	
議決権制限株式（自己株式等）	-	---	
議決権制限株式（その他）	-	-	
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 62,600	---	単元株式数は100株であります。
完全議決権株式（その他）	普通株式 21,548,000	215,480	同上
単元未満株式	普通株式 135,358	---	一単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	21,745,958	---	---
総株主の議決権	---	215,480	---

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
（自己保有株式） 株式会社 中京銀行	名古屋市中区栄三丁目33番13号	62,600	-	62,600	0.28
計	--	62,600	-	62,600	0.28

（注）当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は63,415株となっております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

- 1．当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産および負債の分類ならびに収益および費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
- 2．当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（自平成29年10月1日 至平成29年12月31日）および第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日 至平成29年12月31日）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
現金預け金	46,485	64,127
有価証券	² 578,762	² 571,145
貸出金	¹ 1,297,534	¹ 1,283,532
外国為替	6,169	6,723
その他資産	8,270	10,264
有形固定資産	19,930	19,861
無形固定資産	3,265	2,797
繰延税金資産	931	846
支払承諾見返	4,811	4,530
貸倒引当金	9,906	9,346
資産の部合計	1,956,255	1,954,483
負債の部		
預金	1,749,055	1,769,354
譲渡性預金	-	5,150
コールマネー及び売渡手形	15,000	-
借入金	30,105	31,319
外国為替	1	43
社債	15,000	5,000
その他負債	23,461	16,526
賞与引当金	714	340
退職給付に係る負債	1,759	1,105
睡眠預金払戻損失引当金	372	327
偶発損失引当金	567	624
繰延税金負債	5,082	6,252
再評価に係る繰延税金負債	2,626	2,626
支払承諾	4,811	4,530
負債の部合計	1,848,558	1,843,200
純資産の部		
資本金	31,844	31,844
資本剰余金	23,856	23,994
利益剰余金	27,551	28,988
自己株式	229	187
株主資本合計	83,022	84,640
その他有価証券評価差額金	20,473	22,232
繰延ヘッジ損益	285	285
土地再評価差額金	5,406	5,406
退職給付に係る調整累計額	1,099	911
その他の包括利益累計額合計	24,494	26,441
新株予約権	180	202
純資産の部合計	107,697	111,283
負債及び純資産の部合計	1,956,255	1,954,483

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 3 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年12月31日)
経常収益	23,527	22,390
資金運用収益	16,437	16,180
(うち貸出金利息)	10,720	10,225
(うち有価証券利息配当金)	5,615	5,847
役務取引等収益	3,781	3,913
その他業務収益	1,520	1,379
その他経常収益	¹ 1,787	¹ 917
経常費用	19,254	19,137
資金調達費用	1,358	1,008
(うち預金利息)	740	356
役務取引等費用	1,388	1,492
その他業務費用	1,290	1,454
営業経費	14,377	14,180
その他経常費用	840	² 1,001
経常利益	4,272	3,253
特別利益	22	37
固定資産処分益	22	37
特別損失	241	210
固定資産処分損	7	17
減損損失	234	193
税金等調整前四半期純利益	4,053	3,080
法人税、住民税及び事業税	584	515
法人税等調整額	548	245
法人税等合計	1,133	760
四半期純利益	2,919	2,319
非支配株主に帰属する四半期純利益	46	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,873	2,319

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	2,919	2,319
その他の包括利益	1,611	1,947
その他有価証券評価差額金	1,911	1,756
繰延ヘッジ損益	106	0
退職給付に係る調整額	192	187
持分法適用会社に対する持分相当額	1	3
四半期包括利益	1,308	4,266
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,260	4,266
非支配株主に係る四半期包括利益	47	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
破綻先債権額	1,423百万円	1,242百万円
延滞債権額	23,465百万円	23,188百万円
3ヵ月以上延滞債権額	60百万円	29百万円
貸出条件緩和債権額	5,773百万円	5,896百万円
合計額	30,722百万円	30,357百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

2. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
	11,887百万円	13,758百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
貸倒引当金戻入益	721百万円	- 百万円
株式等売却益	623百万円	625百万円

2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
貸倒引当金繰入額	- 百万円	293百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
減価償却費	1,308百万円	1,417百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月24日 定時株主総会	普通株式	648	3.00	平成28年3月31日	平成28年6月27日	利益剰余金
平成28年11月11日 取締役会	普通株式	433	2.00	平成28年9月30日	平成28年12月5日	利益剰余金

(注) 1. E S O P 信託は、四半期連結貸借対照表上自己株式として表示しているため、それに係る配当金(平成28年6月24日定時株主総会決議分1百万円、平成28年11月11日取締役会決議分0百万円)は、それぞれの配当金の総額には含んでおりません。

2. 平成28年11月11日取締役会決議に基づく1株当たり配当額については、基準日が平成28年9月30日であるため、平成28年10月1日付の株式併合は加味してありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	433	20.00	平成29年3月31日	平成29年6月26日	利益剰余金
平成29年11月13日 取締役会	普通株式	433	20.00	平成29年9月30日	平成29年12月4日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当行グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
株式	19,732	38,549	18,816
債券	355,865	361,301	5,436
国債	216,664	220,110	3,446
地方債	48,207	49,163	956
社債	90,993	92,027	1,033
その他	169,704	173,565	3,861
合計	545,302	573,416	28,114

当第3四半期連結会計期間(平成29年12月31日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
株式	19,268	43,930	24,662
債券	353,952	358,105	4,153
国債	208,660	211,217	2,557
地方債	52,858	53,639	780
社債	92,434	93,249	815
その他	161,581	163,582	2,001
合計	534,802	565,619	30,816

(注) 1. 上表には、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は含めておりません。

2. 四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)は、当第3四半期連結会計期間(連結会計年度)末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

3. その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて30%以上下落し、概ね1年以内に時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められるもの以外のもの、および信用リスク(自己査定における債務者区分、外部格付等)に起因して時価が著しく下落したものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度および当第3四半期連結累計期間における減損処理はありません。

(デリバティブ取引関係)

(1) 金利関連取引

前連結会計年度(平成29年3月31日)

該当する取引はありません。

当第3四半期連結会計期間(平成29年12月31日)

該当する取引はありません。

(2) 通貨関連取引

前連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	通貨先物	-	-	-
	通貨オプション	-	-	-
店頭	通貨スワップ	28,730	13	13
	為替予約	66,619	1,016	1,016
	通貨オプション	-	-	-
	その他	-	-	-
合計		—————	1,030	1,030

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

当第3四半期連結会計期間(平成29年12月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	通貨先物	-	-	-
	通貨オプション	-	-	-
店頭	通貨スワップ	-	-	-
	為替予約	59,226	245	245
	通貨オプション	-	-	-
	その他	-	-	-
合計		—————	245	245

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別委員会報告第25号 平成14年7月29日)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等については、上記記載から除いております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎ならびに潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年12月31日)
(1) 1 株当たり四半期純利益金額	円	132.80	106.99
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	2,873	2,319
普通株主に帰属しない金額	百万円	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	2,873	2,319
普通株式の期中平均株式数	千株	21,639	21,677
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額	円	132.28	106.49
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額	百万円	-	-
普通株式増加数	千株	86	102
(うち新株予約権)	千株	86	102
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株 当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜 在株式で、前連結会計年度末から重要な変動が あったものの概要		-	-

(注) 1 . 1 株当たり四半期純利益金額および潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額の算定に用いられた普通株式の期中平均株式数については、自己名義所有株式分を控除する他、従業員持株 E S O P 信託が所有する自己株式 (前第 3 四半期連結累計期間27千株) を控除し算定しております。

なお、平成28年12月をもって当該信託は終了したため、当第 3 四半期連結累計期間において、信託が所有する自己株式の期中平均株式数はありません。

2 . 平成28年10月 1 日付で普通株式10株を 1 株とする株式併合を実施いたしました。 1 株当たり四半期純利益金額および潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算出してあります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

中間配当

平成29年11月13日開催の取締役会において、第112期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当金額	433百万円
1 株当たりの中間配当金	20円00銭

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 2月13日

株式会社中京銀行

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	篠原 孝広	印
--------------------	-------	-------	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	神野 敦生	印
--------------------	-------	-------	---

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社中京銀行の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社中京銀行及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。